

たからづかしの 家計簿

平成26年度（2014年度）決算概要





市の財政状況については「広報たからづか」などでお知らせしていますが、もっと身近にわかりやすく理解してもらうため一般家庭に例えながら解説していきます。

予算と決算って？

たからづかしの家計簿では平成26年度決算を元に市の財政を説明していきます。まずそもそも「予算・決算」とは、「予算」が使う見込を表すものであるのに対し、「決算」とは予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

一般家庭で例えると、予算は「食費にいくら、次に買う家電にいくら」とあらかじめ計画することで、決算は実際に使ったお金のことをいいます。

市の会計の種類って1つじゃないの？

市の会計は複数に分かれています。1つだけの方がわかりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出はその他の一般的なお金と分ける必要があるため会計を分けています。

一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。

宝塚市の会計について

特別会計

- 国民健康保険事業費
- 国民健康保険診療施設費
- 農業共済事業費
- 介護保険事業費
- 後期高齢者医療事業費
- 財産区（9財産区）
- 宝塚すみれ墓苑事業費

一般会計

公営企業

- 水道事業会計
- 病院事業会計
- 下水道事業会計

*市によって一般会計と特別会計の分けかたが違うため、他自治体と比較できるよう全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。宝塚市では概ね一般会計+宝塚すみれ墓苑事業費=普通会計となります。



いくらぐらいお金の出入りがあったの？

では、次に3つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。
一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見れるように、市の決算を見ることで市が過去一年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

さて、本市の決算状況ですが

入ってきたお金（歳入）727.5億円 - 使ったお金（歳出）718.3億円 = 9.2億円

ただし、この9.2億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰り越すべき財源）が6.2億円あることから実際の平成26年度収支は

9.2億円 - 6.2億円 = 3.0億円

となり使ったお金より、入ってきたお金の方が3.0億円多かったということになります。

決算規模と決算収支の状況

(単位：億円)

	歳入決算額 a	歳出決算額 b	形式収支 b - a = c	翌年度に繰り越すべき財源 d	実質収支 c - d
平成26年度	727.5	718.3	9.2	6.2	3.0
平成25年度	739.3	727.1	12.2	5.6	6.6
増減額	△ 11.8	△ 8.8	△ 3.0	0.6	△ 3.6
増減率	△ 1.6	△ 1.2	△25.0	9.7	△ 54.7

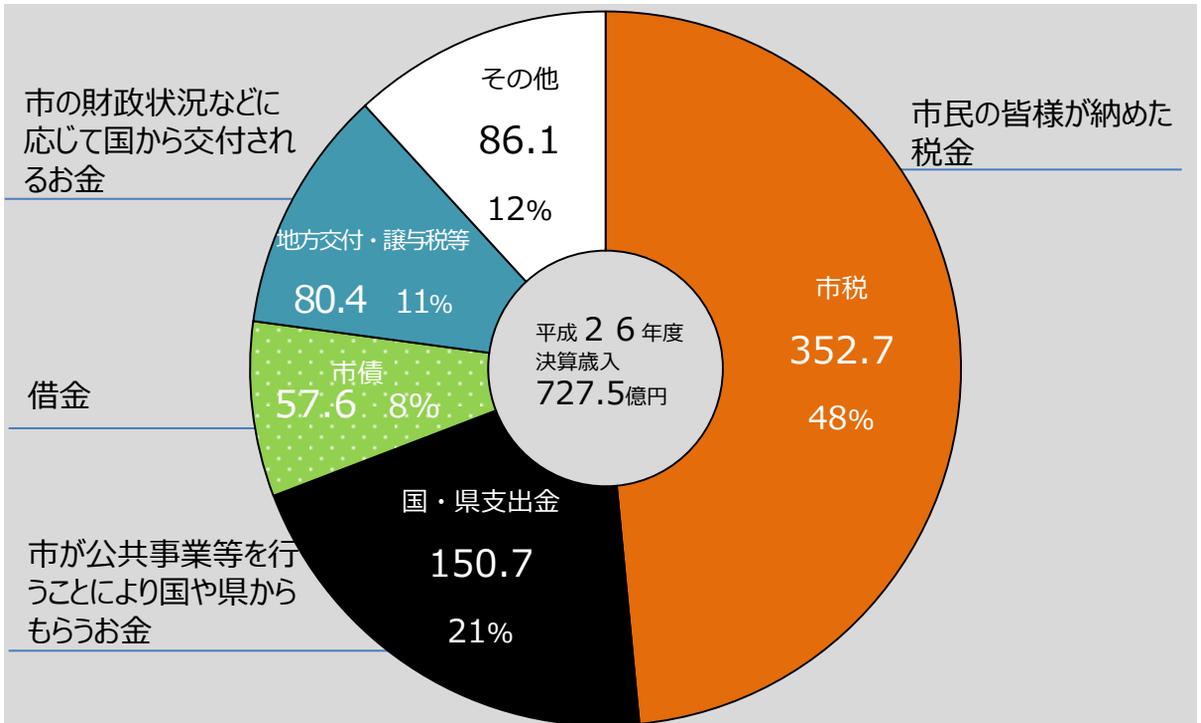


補足用語説明

- 「形式収支」・・・これは入ってきたお金から使ったお金を引いたものです。
市でも一般家庭でもマイナスになる場合、赤字になっている状態です。
- 「翌年度に繰り越すべき財源」・・・形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定だったが何らかの理由で未完了となった工事等に対する支払いが含まれています。その未完了分はまだ支払いが終わっていないため財源を翌年度に繰り越すこととなります。
一般家庭では年度単位でお金を考えることが少ないため、イメージしにくいですが、例えば家の補修を頼んでいたが、期限までに間に合わず、それに伴って支払いも遅くなった場合などです。
- 「実質収支」・・・形式収支 - 翌年度に繰り越すべき財源
 実質収支はその年度でどれだけお金が増もしくは減となったかを表します。

入ってきたお金の内訳は？

単位：億円

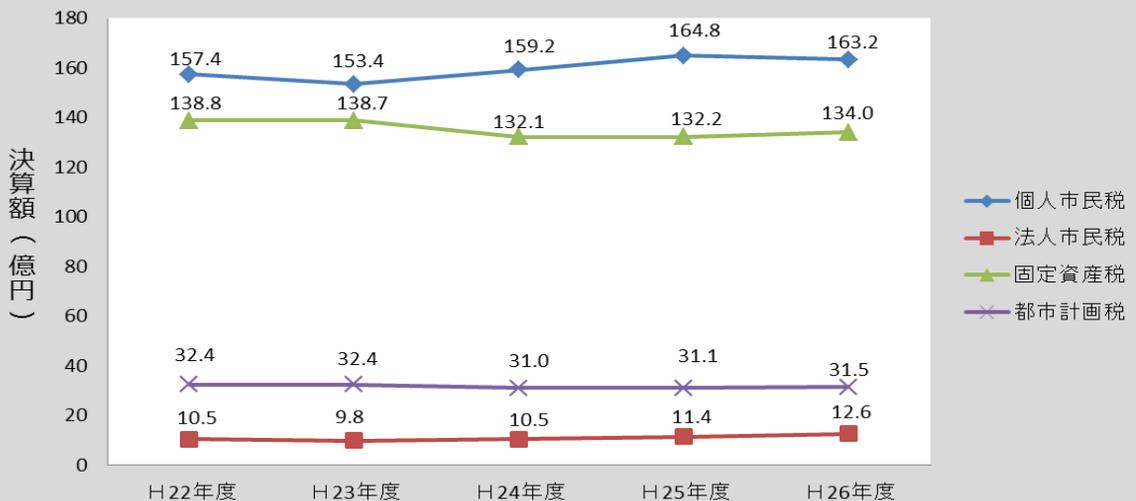


次は入ってきたお金にはどんな種類で、どれくらいあるかを解説します。

全体としては、市の財政状況に応じて国から交付される地方交付税の減、道路などの整備のために市が借りるお金である市債の減等により前年度から11.8億円減少しています。本市の特徴は市税が歳入の約半分を占めており、安定した税収があるということです。（全国市町村平均の市税割合は32.6%（平成25決算））

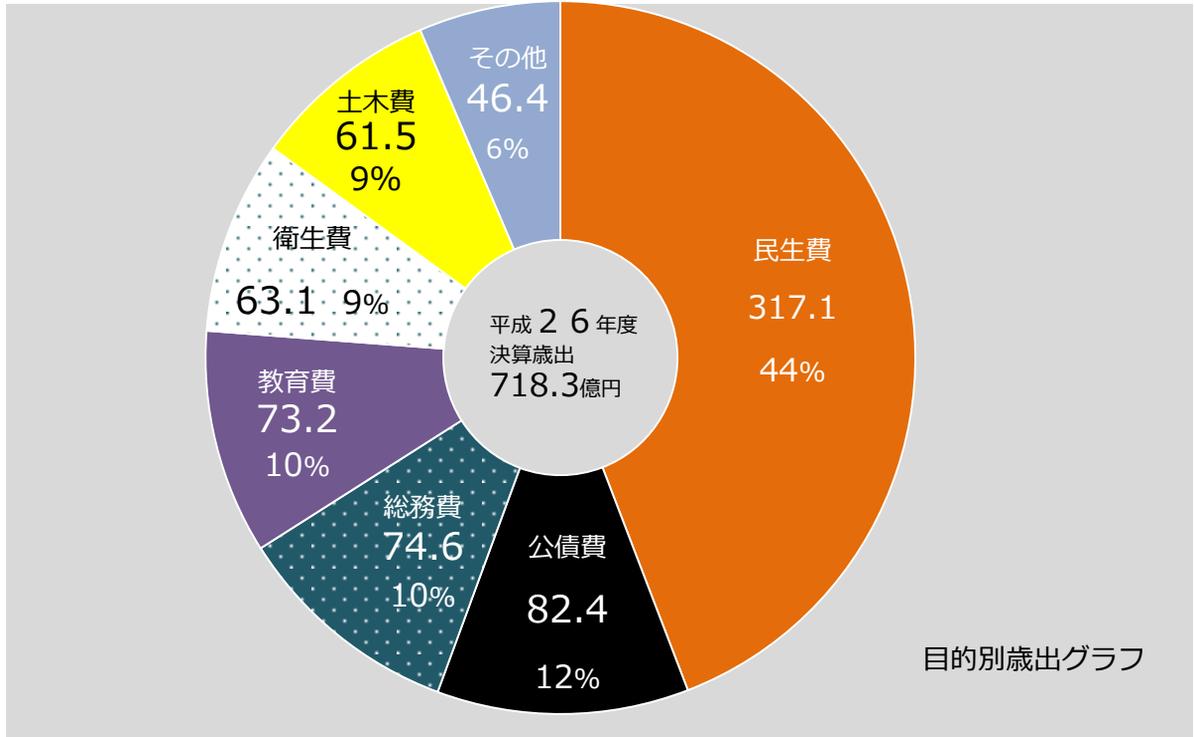
市税の内訳と決算額の推移は次のグラフのとおりです。

市税の内訳と決算額の推移



💡 どんないの目的にどのくらいお金を使ったの？

単位：億円



次は使ったお金はどうな目的にどのくらいお金を使ったのか解説します。

〇〇費とありますが、一般家庭で例えると食費、ガソリン代、塾代といったように目的によってお金をわけて管理するものです。

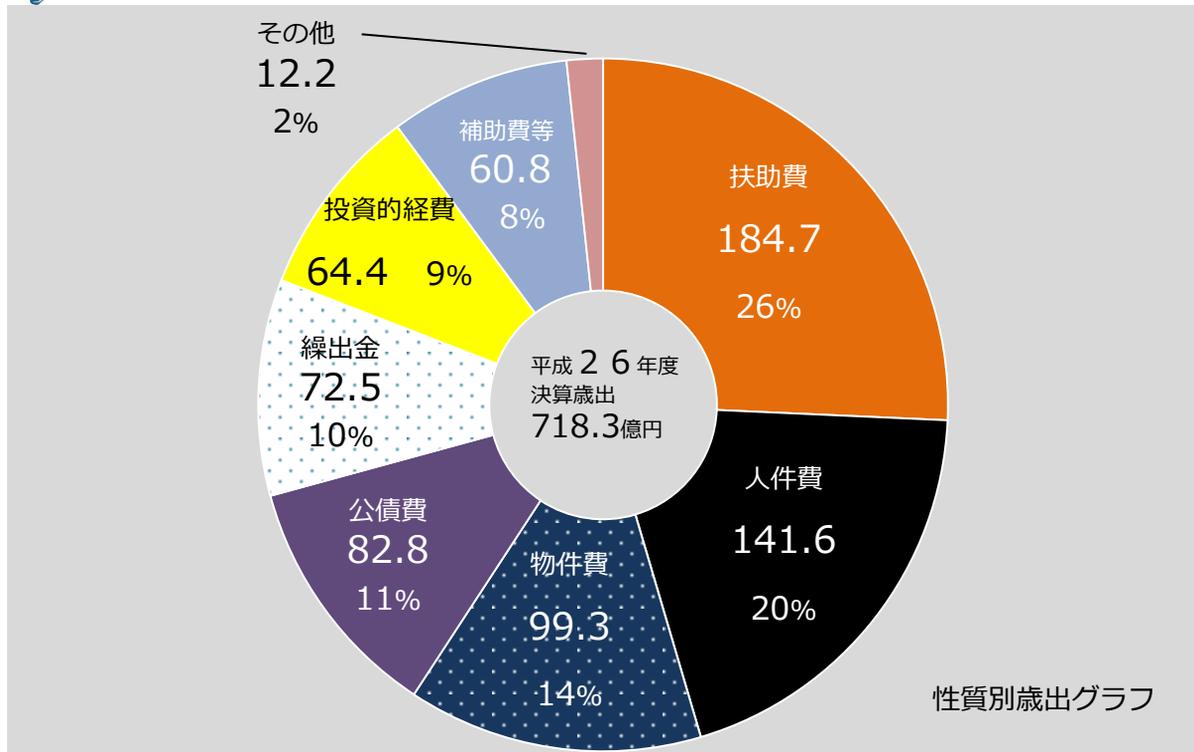
目的別の主な内容は次のとおりです。

- 民生費
→生活保護や障がい者の自立支援等
- 公債費
→地方債（借金）の返済等
- 総務費
→庁舎や財産の維持管理、人件費等
- 教育費
→学校関連や公民館、スポーツ等
- 衛生費
→ごみ処理、予防接種等
- 土木費
→道路や公園、河川、市営住宅等



どんなものにどのくらいお金を使ったの？

単位：億円



次は使ったお金はどんなものにどのくらいお金を使ったのか解説します。

性質別の主な内容は次のとおりです。

- 扶助費
→福祉関連の経費
- 人件費
→給与等の経費
- 繰出金
→特別会計へ支出する経費
- 物件費
→消耗品や備品等の経費
- 公債費
→地方債（借金）の返済経費
- 補助費等
→市から他団体へ支出する補助金や負担金等の経費
- 投資的経費
→公共工事等の経費



使ったお金のグラフから何がわかるの？

目的別や性質別のグラフを見てきましたが、そこからいえることは、福祉関連経費（民生・扶助費）や人件費の支出が多いことです。

特に性質別のうちで人件費と扶助費、公債費は義務的経費と呼ばれ制度的に支出することが義務づけられている経費です。人件費と公債費は近年減少傾向ですが扶助費は増加傾向です。義務的経費が増加することは、投資的経費等その他の経費を圧迫することになります。

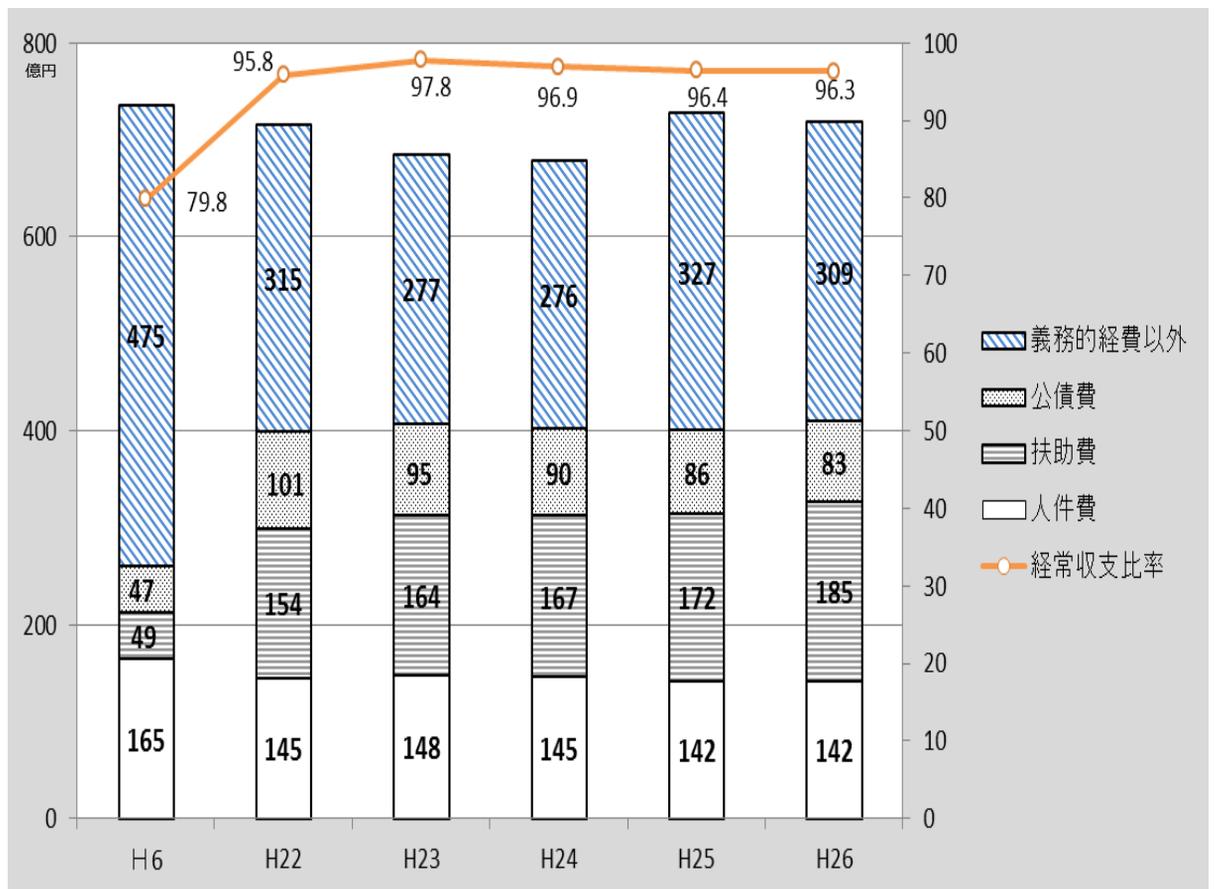
下のグラフは義務的経費の推移です。このグラフの一番左は阪神・淡路大震災前の数値を掲載していますが、扶助費、公債費がこの20年で大幅に増えていることがわかります。

○ 経常収支比率

→ 市税等の使い道を制限されない経常的な収入に対する人件費、扶助費、公債費など毎年度支出される義務的経費の割合です。この数字が低いほどお金の使い道の自由度が高いといえます。

本市では96.3%と阪神・淡路大震災関連の借金返済や扶助費の増加によって高い経常収支比率となっています。

（全国市町村平均の経常収支比率は90.2%（平成25年度決算））



■もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉がむずかしかったり、額も大きすぎて、なかなかイメージし難いと思いますので、ここでは月収41万円（年収約500万円）の一般家庭に置きかえてみます。

たからづかしの家計簿			
収入		支出	
給与	37 万円	食費（人件費）	8 万円
うち基本給（市税・地方譲与税等）	22 万円	医療費（扶助費）	11 万円
うち諸手当（地方交付税・国県支出金等）	15 万円	ローンの返済（公債費）	5 万円
貯金の取崩など（繰入金等）	1 万円	光熱水費・通信費（物件費）	5 万円
ローンの借入（市債）	3 万円	家の修理・家電購入（投資的経費等）	4 万円
		家族への仕送り（繰出金等）	8 万円
合計	41 万円	合計	41 万円
		ローン残高（地方債残高）	505 万円
		預貯金残高（基金残高）	80 万円



家計簿を分析してみよう！

・医療費が多いですね。過去の家計簿も調べると年々増加していて、家電購入等を我慢してなんとか医療費を捻出しています。それに家族への仕送りも多いです。

・ローンの返済額が借入額を上回っており、平成25年度と比べてローン残高は2万円減少しました。しかし、預貯金残高も6万円減少しました。



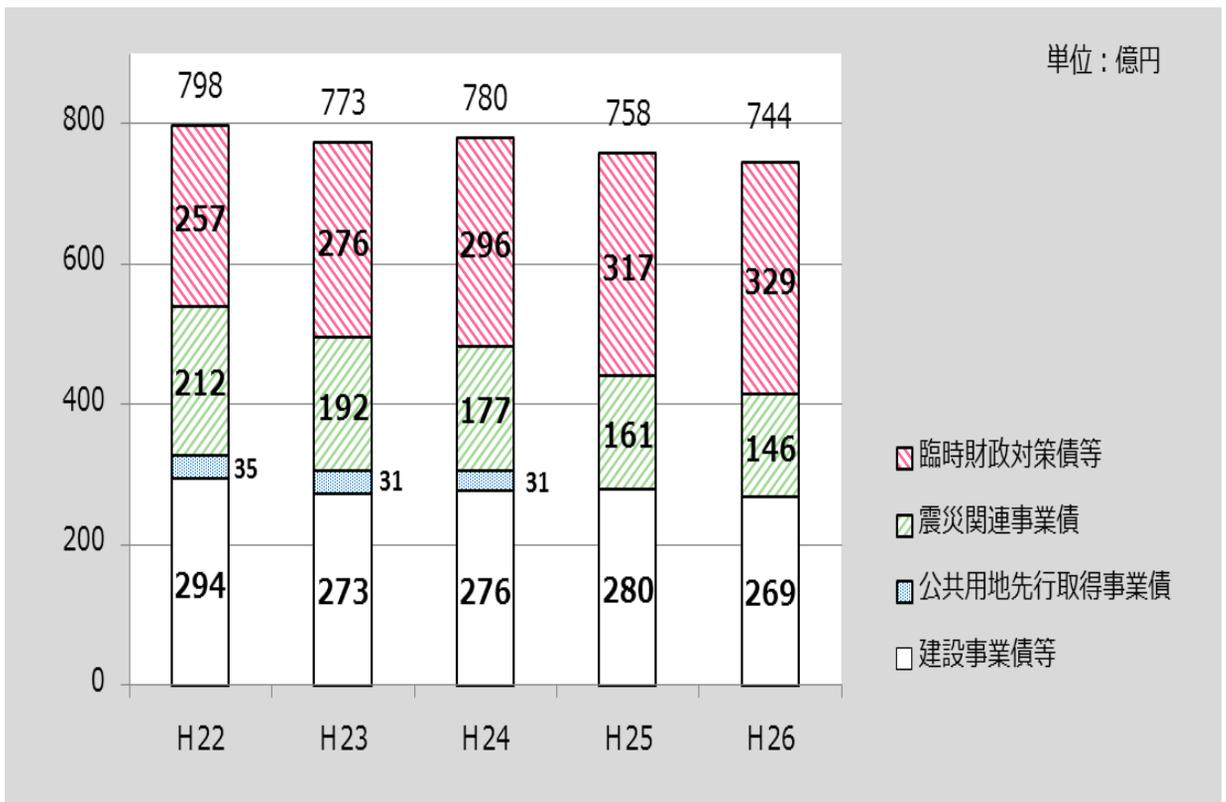
借金（地方債）はどのくらいあるの？

まず地方債とは、市が公共施設や道路等を建設する場合、多額の資金が必要となることや、市民負担の世代間の公平性の観点から借金をして事業を行っています。この借金のことを地方債と呼びます。

地方債残高については近年、投資的経費を抑制している事により徐々に減少していますが、まだ阪神・淡路大震災関連の残高が146億と高い割合を占めています。なお臨時財政対策債という地方債が近年増加していますが、これは国からの交付税の代替的な地方債で、後年度に交付税として措置されるもので、純粋な借金としての地方債とは性質が異なります。

下のグラフは地方債残高の推移と内訳です。

*このグラフは普通会計で決算を見ています。



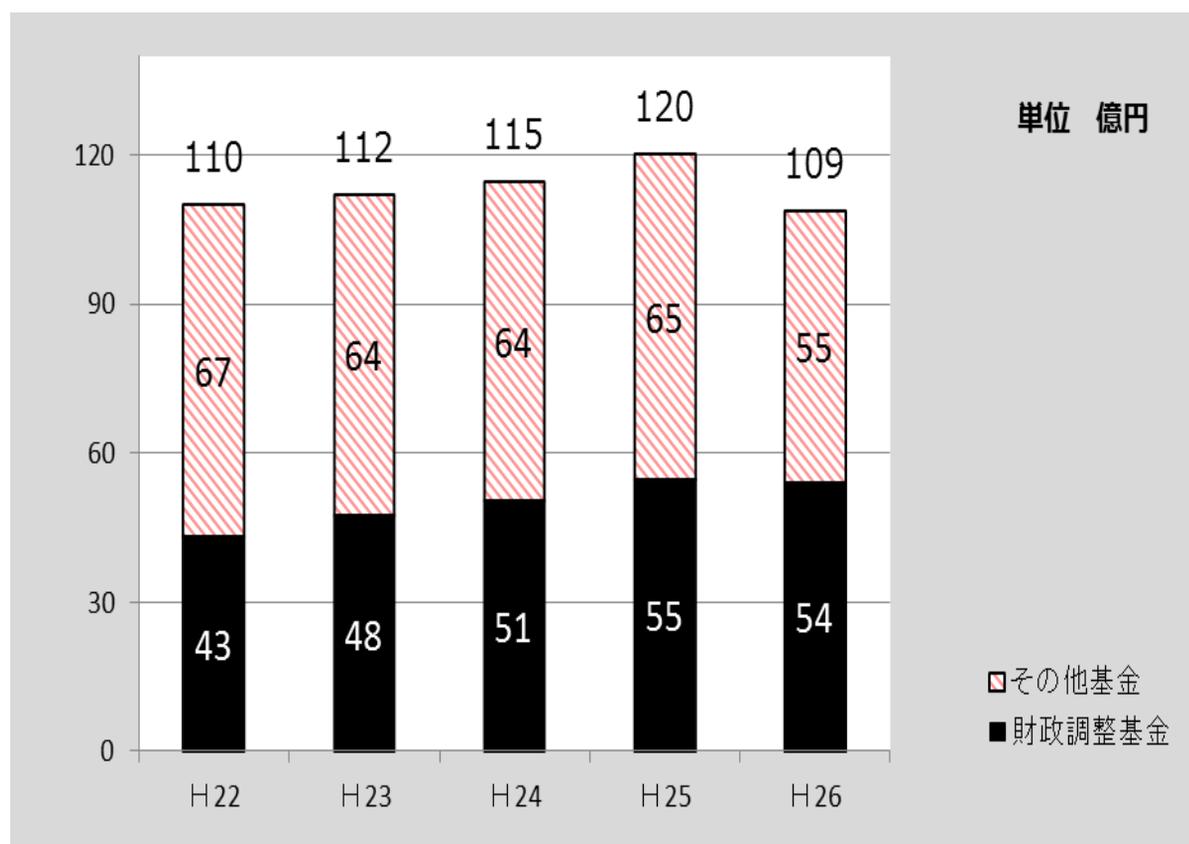
貯金（基金）はどのくらいあるの？

一般家庭でいう預貯金にあたるものを市では基金と呼びますが、その基金の残高は次のグラフのとおりです。近年微増で推移していましたが、平成26年度は5年ぶりに減少しました。

一般家庭でも教育や旅行等いろいろな貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思えます。同じように市の基金もお金のやりくりをするための財政調整基金や決まった目的のために積み立てている基金等があります。

下のグラフは基金残高の推移と内訳です。

*このグラフは普通会計で決算を見ています。



特別会計の状況

収入総額 15の特別会計の収入総額は、434.8億円でした。
支出総額 15の特別会計の支出総額は、443.5億円でした。
収支差引 収支差引額は、8.8億円の赤字でした。

国民健康保険事業費で年々医療費などが増加していることにより、14.5億円の累積赤字となっています。

水道事業の状況

収益 収益は、43.9億円でした。
費用 費用は、61.1億円でした。
純損失 純損失は、17.2億円でした。

3年連続の赤字となりました。会計基準変更に伴う特別損失の計上などの影響により、平成26年度の赤字額は、平成25年度と比べて増加しました。

下水道事業の状況

収益 収益は、42.5億円でした。
費用 費用は、45.4億円でした。
純損失 純損失は、2.9億円でした。

7年連続の赤字となりました。会計基準変更に伴う特別損失の計上などの影響により、平成26年度の赤字額は、平成25年度と比べて増加しました。

病院事業の状況

収入 収入は、115.4億円でした。
支出 支出は、108.2億円でした。
収支差引 収支差引額は、7.2億円の黒字でした。

しかし、ここには会計基準の変更に伴う平成26年度に限って生じた特別利益と特別損失が含まれており、それらを除いた収支は3.4億円の赤字でした。



市の状況を図るものさしはないの？

一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得やローン状況等を金融機関にチェックしてもらい融資を受けることになると思います。

それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができない等の国のチェック機能（健全化4指標）や国からもらえるお金（地方交付税）の基礎となる財政力指数という数字等があります。

健全化4指標

国の基準に基づく4つの指標です。一定基準を超えると新たな借金（地方債）を制限されるなど、自治体が破たんしないようにするチェック機能の役割があります。

実質赤字比率・連結実質赤字比率については赤字が発生してないので対象外です。実質公債費比率及び将来負担比率も早期健全化基準以下となっており、今のところ良好であるといえます。

ただし、公営企業における資金不足比率については、病院が3.5%となっており、早期健全化基準までは至らないものの持続可能で健全な経営を実現するため、引き続き、収支改善に向けて取り組む必要があります。

単位:%

健全化4指標	平成26年度		（イエローカード） 早期健全化基準	（レッドカード） 財政再生基準
実質赤字比率	なし		11.39	20.00
連結実質赤字比率	なし		16.39	30.00
実質公債費比率		6.5	25.0	35.00
将来負担比率		48.8	350.0	
公営企業における資金不足比率	水道	なし	20.0	
	下水道	なし	20.0	
	病院		3.5	20.0

財政力指数

この指数が高いほど財政力が高く、1.0を超えた場合には国からの交付税なしに財政運営することができます。ちなみに宝塚市は0.862で本市と同じ特例市の全国平均は0.81です。



結局宝塚市の財政はどんなの？

これまで様々な角度から決算を見てきましたが、「数字はわかったけど、宝塚市はどんなの？」という視点で決算を見てみます。

まず特徴を4つあげると次のとおりです。

- 歳入のうち、約半分が市税である
- 各種指標は、危機的状況ではない
- 市債残高は、減少傾向
- 基金残高は、ほぼ横ばい

平成26年度決算をまとめると、概ね健全な財政状況ですが、今後は少子高齢化による税収減や、公共施設の維持補修費の増加、増え続ける扶助費など、厳しい財政運営が見込まれます。

これからも本市が健全な財政状況であり続けるために、今後も引き続き経費の節減や事業の見直しなどの行財政改革に取り組む必要があります。



参考資料 平成26年度決算でみる主な事業

I これからの都市経営

市制60周年記念式典等事業

～平成26年4月19日に宝塚ホテルにおいて、市制60周年記念式典を開催し、併せて功労者表彰を実施～

264万円



第5次宝塚市総合計画後期基本計画策定事業

～平成28年度からスタートする第5次宝塚市総合計画後期基本計画を平成26年度から平成27年度までの2カ年で策定～

846万円



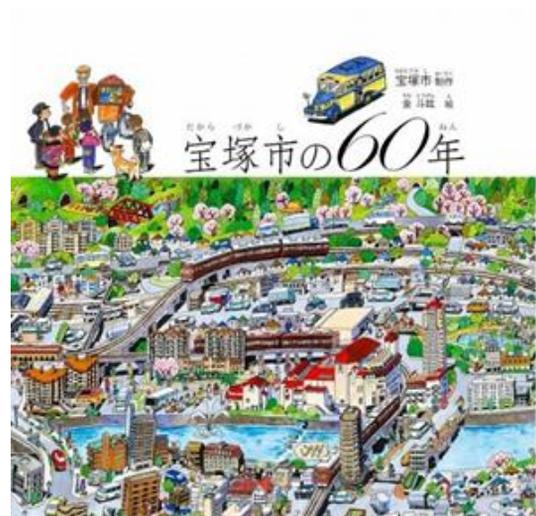
市制60周年記念事業

1,104万円

～宝塚ランニングフェスティバルIN阪神競馬場の開催～



～市制60周年記念誌絵本「宝塚市の60年」の発刊～



市議会60周年記念事業

～「歌劇のまち」の議会改革の発行～

442万円



Ⅱ 安全・都市基盤

阪神・淡路大震災犠牲者追悼事業

～震災20年を迎え、阪神・淡路大震災宝塚市犠牲者慰霊式を平成27年1月17日に宝塚ホテルで開催～

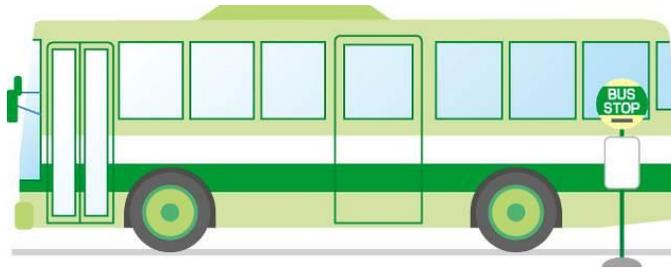
211万円



地域公共交通導入支援事業（月見山・長寿が丘地区）

～持続可能な公共交通の導入に向けた社会実験～

377万円



駅舎構内バリアフリー化助成事業

～阪急宝塚南口駅のエレベーター及び多目的トイレの設置助成～

2,121万円



Ⅲ 健康・福祉

休日応急診療所等の整備

～休日応急診療所を健康センター内へ移転～

1億1,721万円



Ⅳ 教育・子ども・人権

非核平和都市宣言25周年記念事業

～平和の鐘、非核平和都市宣言文石碑の設置など～

592万円



全国男女共同参画宣言都市サミットの開催

～平成26年11月14日・15日に宝塚ホテル等にて開催～

450万円



つながろう！プレ1年生！！の開催

～就学前の5歳児を対象としたイベントを末広中央公園で開催～

219万円



待機児童解消に向けた私立保育園の誘致整備

～宝塚COCORO保育園、川面ちどり保育園、仁川ウエル保育園の誘致整備～

3億4,837万円



学校施設の耐震化

～小・中学校、特別支援学校施設の耐震化～

6億3,570万円



おいしい学校給食の開催

233万円

～『程さんのおいしい学校給食』の開催～

宝塚市在住の料理研究家、程一彦先生の献立・調理指導による学校給食を全校で一斉に提供



～学校給食大試食会の開催～



花屋敷グラウンドの整備

～人工芝グラウンドを新設整備～

3億9,348万円



V 環境

中筋2丁目やまぼうし公園の整備

～ボール遊びのできる防災機能を有した公園を整備～

6,000万円



ごみ焼却施設基幹的設備の改良

～ごみ焼却施設の延命及び温室効果ガス（CO2）の削減～

4億1,538万円



VI 観光・文化・産業

宝塚歌劇100周年記念事業の実施

～100周年を記念し、市民を対象に貸切公演を開催（平成26年11月9日）～

1,263万円



ダリアで彩る花のまちづくり事業

～ダリアの植栽や「ダリア花飾り」を実施～

700万円



たからづかしの家計簿 平成27年（2015年）12月作成
企画経営部 行財政改革室 財政課
電話0797-77-2409